

目 次

まえがき	iii
謝 辞	v
訳者序文	vii
第1章 序 論	1
1.1 人工知能・記号論理学・定理証明	1
1.2 数学的基礎	4
参考文献	5
第2章 命題論理学	6
2.1 序 論	6
2.2 命題論理における論理式の解釈	8
2.3 命題論理における恒真と恒偽	10
2.4 命題論理式の標準形	12
2.5 論理的帰結	15
2.6 命題論理の応用	20
演習問題	23
参考文献	26
第3章 第一階述語論理	27
3.1 序 論	27
3.2 第一階述語論理における論理式の解釈	31
3.3 第一階述語論理式の冠頭標準形	36
3.4 第一階述語論理の応用	40
演習問題	42
参考文献	45
第4章 エルブランの定理	46
4.1 序 論	46

4.2	スコーレム標準形	47
4.3	節集合に対するエルブラン空間	53
4.4	解 積 木	58
4.5	エルブランの定理	62
4.6	エルブランの定理の実行	64
	演 習 問 題	68
	参 考 文 献	71
第5章	導 出 原 理	73
5.1	序 論	73
5.2	命題論理に対する導出原理	74
5.3	代入と単一化	77
5.4	単一化アルゴリズム	80
5.5	第一階述語論理に対する導出原理	83
5.6	導出原理の完全性	86
5.7	導出原理を用いた例題	90
5.8	消 去 戦 略	95
	演 習 問 題	100
	参 考 文 献	102
第6章	意味的導出法とロック導出法	103
6.1	序 論	103
6.2	意味的導出法の直観的な解説	104
6.3	意味的導出法の定義とその例	107
6.4	意味的導出法の完全性	108
6.5	超導出法と支持集合戦略：意味的導出法の特別な場合	111
6.6	順序付き節を用いた意味的導出法	114
6.7	意味的導出法の実行	120
6.8	ロ ッ ク 導 出 法	124
6.9	ロ ッ ク 導 出 法 の 完 全 性	128
	演 習 問 題	130
	参 考 文 献	133
第7章	線型導出法	135
7.1	序 論	135
7.2	線型導出法	135

7.3	入力導出法と単位導出法	137
7.4	順序付き節と導出に使われた リテラルの情報とを使った線型導出法	141
7.5	線型導出法の完全性	148
7.6	線型演繹と木の探索	151
7.7	木の探索の発見的手法	159
7.8	評価関数の決定	161
	演習問題	165
	参考文献	168
第8章	等号関係	169
8.1	序論	169
8.2	特定のクラスにモデルを限定したときの充足不可能性	171
8.3	等号調整法—等号のための推論規則	174
8.4	超等号調整法	177
8.5	入力等号調整法と単位等号調整法	180
8.6	線型等号調整法	185
	演習問題	187
	参考文献	189
第9章	エルブランの定理に基づくいくつかの証明手続	191
9.1	序論	191
9.2	Prawitzの手続	191
9.3	V-導出法	196
9.4	準解釈木	204
9.5	閉じた準解釈木の生成	206
9.6	Davis と Putnam の分割規則の一般化	212
	演習問題	215
	参考文献	216
第10章	プログラム分析	218
10.1	序論	218
10.2	直観的な議論	219
10.3	プログラムの形式的な定義	221
10.4	プログラムの実行過程を記述する論理式	224
10.5	導出法によるプログラム分析	226

10.6	プログラムの停止と応答	231
10.7	支持集合戦略と停止節の演繹	235
10.8	プログラムの正当性と等価性の判定	236
10.9	プログラムの特殊化	238
	演習問題	241
	参考文献	243
第11章 演繹的質問応答・問題解決・プログラム合成		244
11.1	序論	244
11.2	クラスAの質問	246
11.3	クラスBの質問	247
11.4	クラスCの質問	250
11.5	クラスDの質問	254
11.6	解答抽出における導出法の完全性	261
11.7	プログラム合成の原理	262
11.8	原始的な導出法とアルゴリズム A^*	270
11.9	アルゴリズム A^* の正当性	279
11.10	帰納公理のプログラム合成への適用	284
11.11	アルゴリズム A	288
	演習問題	292
	参考文献	294
第12章 結言		296
	参考文献	297
付録 A		300
A.1	二元単位導出法を使った計算機プログラム	300
A.2	プログラムの概略	303
A.3	プログラム・リスト	305
A.4	例題	311
	参考文献	318
付録 B		319
参考文献		323
索引		339

